

問い合わせ先

第二管区海上保安本部海洋情報部

監理課長 長尾 道広

電話 022-363-0111 (内線 2510)



平成24年2月15日

第二管区海上保安本部

震災後の相馬港の海底の状況が明らかになりました

震災後に実施した相馬港の精密な水深測量の結果がまとめ、同港の海底の状況が明らかになりました。

第二管区海上保安本部では、東日本大震災により被災した管内の港湾について、復旧・復興のための輸送路を確保するため、水深の変化や海底の障害物の状況等を把握するための測量を実施しています。

今般、昨年10月に、海上保安庁測量船「天洋」(430トン)により実施した相馬港における測量データの解析処理が終了し、同港の海底の詳細な状況が明らかになりました。(詳細別紙参照)

震災前と比較して、変化していた主な点は以下のとおりです。

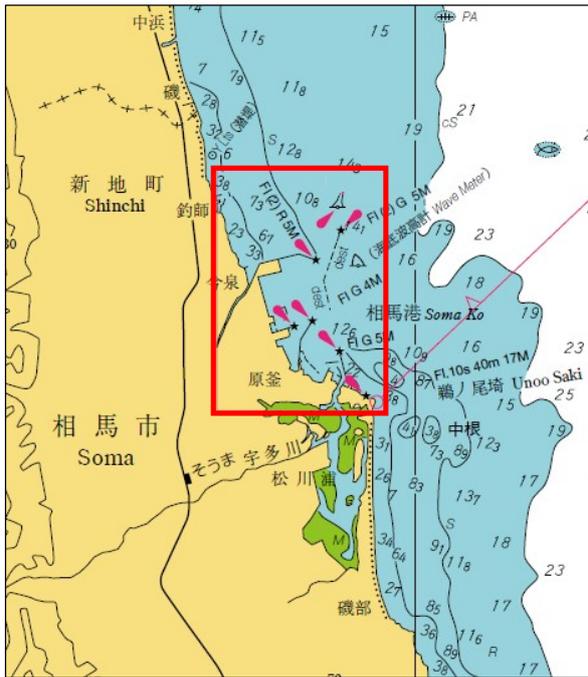
- (1) 沖防波堤は一部を残し全体的に倒壊しており、同防波堤の内側に多数のケーソンが押し流されていました。また、その付近に多数の異状物が確認されました。
- (2) 防波堤付近などの航路等が狭まった箇所においては、震災前に比べて水深が最大で約5m深くなっていることが分かりました。
- (3) 岸壁が一部損壊した箇所があり、散乱したため、岸壁付近は水深が最大で約6m浅くなっていました。また、港内に多数の異状物が確認されました。

海上保安庁では、この測量結果を反映させた海図を3月中に改訂する予定です。

なお、航行の安全のため、水深が浅くなっている区域や障害となる異状物については、海図の改訂に先立ち、既に二管区水路通報[※]で周知を行っています。

[※]二管区水路通報 管内の船舶交通の安全に必要な情報をホームページで提供しています。
ホームページ <http://www1.kaiho.mlit.go.jp/KAN2/tuho/index.html>

3月に改訂予定の相馬港の海図の
包含区域（赤線で示した区域）



相馬港の水深測量を実施した測量船



測量船天洋

総トン数 430トン
主要寸法（全長×巾×深）
56.0×9.8×5.0m
速力 約13ノット
航続距離 約5,400海里
主要観測機器
マルチビーム測深機
XBT
ADCP

